【DP（ディプロマ・ポリシー)】
（令和６年度以降入学生）

生命科学科，農林生産学科，環境共生科学科

・人材育成目標（社会における顕在・潜在ニーズ，卒業生が身につけるべき資質・能力）

生物資源科学部では，学士課程において以下に掲げる資質・能力を身につけた者に学士（生物資源科学）を授与します。

1．生命科学，農林生産，食料，農業経営・経済，生態環境に関する幅広い知識と生物資源を有効に利活用できる技術や知識
2．生態環境を総合的に保全・管理するための知識と技術
3．国際的視野を有し，産業・地方自治体に貢献するための知識や技術

・目標としての学修成果（学修成果として身につく具体的な資質・能力の項目）

1．人間・社会・自然に関する幅広い教養を身につけている。
2．理学や農学に関わる基礎的な知識を身につけている。
3．研究の一環として，専門知識を含む英語科学論文の内容を理解することができる。
4．多角的な視点，批判的思考力を備え，各専門分野における課題の解決に主体的に取り組むことができる。
5．研究の一環として，必要なデータを収集・整理し，それらを解析して結論を論理的に導くことができる。
6．得られた研究成果を文章や口頭で適切に表現することができる。
7．地域産業と協働した持続可能な社会の実現に有用となる，生物資源の持続・有効利用や環境保全などに関する専門知識や技能を身につけている。
8．生物資源科学に関する専門的な知識・技能を応用し，既存の専門分野の枠組みを超えた新たな価値の創造に向かう姿勢を身につけている。

・DP と特に関わりが深い SDGs17 の目標（学士課程を通じた資質・能力の修得が，社会における SDGs のゴール達成とどのように関わるか）

生物資源科学部の教育・研究は，SDGs17 の目標すべてと深く関わっています。特に関わりが深いものの例を以下に示しています。

1．SDG「２．飢餓をゼロに」

学士（生物資源科学）取得者のうち，「食」に関連する生命現象を理解する上で必要な知識や食品開発に役立つバイオテクノロジー技術，農産物及び林産物に関する持続可能な生産技

術と経営・経済に関する知識や技術などを修得した者は，持続的な食料生産による豊かな人間生活の実現に資する公務や民間企業，大学・公的研究機関等で活躍できる基盤を有しています。

2．SDG「3．すべての人に健康と福祉を」

学士（生物資源科学）取得者のうち，微生物から動植物まで幅広い生物を対象とする学修を通じて，生命現象の仕組みや，自然界に存在する化学物質・食品成分・医薬品・農薬などが生物に及ぼす影響を理解するための知識を修得した者は，人々の健康な生活を確保ししつ環境調和型社会を実現することに資する公務や民間企業，大学・公的研究機関等で活躍できる基盤を有しています。

3．SDG「14. 海の豊かさを守ろう」，SDG「15. 陸の豊かさも守ろう」

学士（生物資源科学）取得者のうち，中山間地域の森林・里山から日本海から宍道湖・中海を含む湖沼河川まで，多様な水域や陸環境に生育する豊かな生物多様性に関する知識を修得した者は，生物資源の持続・有効利用と環境保全に寄与する公務や民間企業，大学・公的研究機関等で活躍できる基盤を有しています。

【CP（カリキュラム・ポリシー)】
（令和 6 年度，令和 7 年度入学生）

生命科学科，農林生産学科，環境共生科学科

1．教育課程の編成方針

生物資源科学部には, 生命科学科, 農林生産学科, 環境共生科学科の 3 学科 12 コースがあり，卒業までに修得すべき学修到達目標が定められ人材育成が行われます。

（1）1 年次～2 年次では，主として全学基礎教育を履修します。全学基礎教育は，現代社会が求める基礎的な資質・能力の成長を促すために，すべての学士課程に所属する学生が共通して学修する教育課程であり,「島大 STEAM 科目群」「ユニバーサル科目群」「地域創生科目群」「教養育成科目群」の 4 つの科目群に分かれます。このうち「島大 STEAM 科目群」「ユニバーサル科目群」には必修科目が設定されています。「島大 STEAM 科目群」では「数理・データサイエンスへの誘い（2 単位)」と「情報科学（2 単位)」,「ユニバーサル科目群」では「英語（6 単位)」と「初修外国語（2 単位)」,「SDGs 入門（2 単位)」が必修科目です。このほかに，選択科目として 4 つの科目群から幅広い分野の授業科目を選択履修し，全学 CP が定める各科目群の目標への到達を促します。

（2）生物資源科学部では，専門分野での学修に加えて，自己のもう一つの成長の可能性を発現させるため，「島根大学クロス教育」の履修を推奨します。「島根大学クロス教育」は，下に掲げるⓐ～ⓔの５つのプログラム・カテゴリーがあり，テーマや学問分野の異なる複数の教育プログラムによって構成されています。プログラムごとに修了に必要な単位数が定められています。生物資源科学部では卒業までに「島根大学クロス教育」から１プログラム以上含んで学修することを推奨しています。

ⓐテーマ別プログラム（10 単位）
ⓑ他学部学問基礎プログラム（10 単位）
ⓒ同学部異領域専門プログラム（10 単位）
ⓓアドバンストプログラム（20 単位）
ⓔトランスボーダープログラム（30 単位）
各カテゴリの目的・目標については全学 CP を参照してください。

（3）生物資源科学部では，SDGs の目標とその達成への理解を促すため，全学基礎教育の「SDGs 入門（２単位)」を必修科目として学修します。また，特に専門教育科目の「生物資源科学の研究と SDGs（２単位)」での学修を通じて，「２．飢餓をゼロに」「３．すべての人に健康と福祉を」「15. 陸の豊かさも守ろう」などを含めた SDGs の 17 目標の理念を理解し，それらの達成に資する人材を育成します。さらに，全ての授業科目において，SDGs の 17 の目標との対応関係をシラバスに記載し，学生の関心に沿った授業選択を促します。

（4）１年次の「初年次教育科目」として「生命科学基礎セミナー」，「農林生産基礎セミナー」，「環境共生科学基礎セミナー」が設けられており，議論する力・批評する力・レポートを書く力・プレゼンテーションする力などの「主体的に学ぶ態度」を養います。また，グループ学習によって，他者と協調・協働して行動する力などを身につけることができます。また，１年次では，学部共通科目として開講される「基盤科目」の中から，学科・コースにおける専門教育科目を履修するための基礎となる科目を履修します。

- 生命科学科では，細胞生物学や生態学などの生物学分野，生物化学や物理化学などの化学分野の科目を選択して履修し，理学や農学に関わる基礎的な知識と総合的視点を身につけることができます。
- 農林生産学科では，必修として学科が開講する４つの概論科目を履修するとともに，学部共通科目として開講される「基盤科目」を選択して履修します。生物資源科学に関わる基礎的な知識と総合的視点を身につけ，２年次以降に農林生産学の専門教育科目を履修するための土台とします。
- 環境共生科学科では，１年次の「専攻科目」として初年次教育科目である「環境共生科学入門」，「環境共生科学概論」を履修し，２年次以降に専攻する専門分野への意識を高めます。さらに，科学全般を理解し，理学や農学に関わる基礎的知識と総合的視点を身につけるために，学部共通科目として開講される「基盤科目」を履修します。

（5）２年次以降は，特色ある教育コースに所属し，定められたカリキュラムにそって「専攻科目」を履修します。各学科にはそれぞれ以下に示す４つの教育コースがあります。

- 生命科学科　　：『細胞生物学コース』,『水圏・多様性生物学コース』
  『生命機能化学コース』,『食生命科学コース』
- 農林生産学科　：『資源作物・畜産学コース』,『園芸植物科学コース』
  『農業経済学コース』,『森林学コース』
- 環境共生科学科：『環境生物学コース』,『生態環境学コース』
  『環境動態学コース』,『地域工学コース』

なお，各教育コースでの詳細な専門科目の履修に関しては「履修の手引」に記載しています。

（6）生命科学科では３年次後期から，農林生産学科と環境共生科学科では３年次前期から，卒業研究に取り組む研究室に所属し，専門分野の知識を深め，専門的な研究手法や技術を習得します。「専攻科目」のセミナーや演習，実習，実験で専門性の高い実践的な研究手法を習得し，４年次の卒業研究を準備します。

（7）４年次には「卒業研究」を履修し，これまでに修得した知識や能力を存分に発揮しさらに伸ばしていくために，自ら定めた研究課題に取り組みます。関係する科学論文（英語文献を含む）を収集・理解し，実験や調査を実施し，得られたデータを適切に分析・考察し，成果を取りまとめ，発表します。

２．教育課程における教育・学修方法に関する方針

（1）「専攻科目」は，各専門分野におけるより高度な知識・技能を修得するとともに，批判的思考力や問題の発見・解決能力を涵養することを目的として開講され，教育コース毎に講義，セミナー，演習，実験，実習を体系的に組み合わせて実施します。講義系の授業群では，専門分野の知識や理論を体系的に身につけ，また，その理解をレポートなどで文章化することが求められます。セミナー・演習・実験・実習系の授業群では，専門分野の理解を深めるとともに，基礎となる実験・調査・分析の手法，文献調査やデータに基づく発表，英語科学論文の内容理解，技術者としての資質・能力などを実践的に身につけます。これらを通じて，主体的な態度と批判的思考力，課題探求・解決力，判断力，表現力を向上させます。

（2）実験や実習系の授業群の中には，地域の恵まれた環境を生かして，多彩なフィールド教育が組み込まれています。島根大学松江キャンパス内の実験圃場・動物舎，附属生物資源教育研究センター（本庄総合農場，神西砂丘農場，演習林，隠岐臨海実験所），エスチュアリー研究センターなどの大学施設や，島根県内の農村などと連携した多様なフィールド教育科目があり，野外調査や分類同定，植物栽培，動物飼養，化学分析，遺伝子解析，森林調査，農家聞き取り調査などの技術を身につけます。実験系の授業群では，総合科学研究支援センター遺伝子機能解析部門と連携しながら生命科学に関わる解析技術やデータ分析を身につけます。

これらの科目では，自然の摂理を創造的に解析する力，生物・生命・生産・環境に関する諸問題，農林業生産についての諸問題，自然現象を直接感受し環境調和型社会の構築に関わる諸問題を科学的・総合的に捉え，解決する力を養います。

（3）「卒業研究」とその関連科目では，担当教員の指導のもとに，自らが研究課題を定め，文献収集，実験・調査・観測によるデータの収集と解析を行い，卒業研究を完成させます。研究活動を通じて課題探求・解決能力，思考力，判断力，表現力，コミュニケーション力をより向上させることを目指します。

3．学修成果の評価の方針

（1）授業における学修成果は，シラバスに記載した到達目標を基に「生物資源科学部における成績評価基準」に従って評価されます。

（2）４年次の「卒業研究」では，口頭発表および卒業論文の審査を含め，複数の教員による厳正な審査による評価が行われます。

【CP（カリキュラム・ポリシー)】
（令和８年度以降入学生）

生命科学科，農林生産学科，環境共生科学科

１．教育課程の編成方針

生物資源科学部には, 生命科学科, 農林生産学科, 環境共生科学科の３学科 12 コースがあり, 卒業までに修得すべき学修到達目標が定められ人材育成が行われます。

（1）１年次～２年次では，主として全学基礎教育を履修します。全学基礎教育は，現代社会が求める基礎的な資質・能力の成長を促すために，すべての学士課程に所属する学生が共通して学修する教育課程であり,「島大 STEAM 科目群」「ユニバーサル科目群」「地域創生科目群」「教養育成科目群」の４つの科目群に分かれます。このうち「島大 STEAM 科目群」「ユニバーサル科目群」には必修科目が設定されています。「島大 STEAM 科目群」では「数理・データサイエンスへの誘い（２単位)」と「情報科学（２単位)」,「ユニバーサル科目群」では「英語（６単位)」と「初修外国語（２単位)」,「SDGs 入門（２単位)」が必修科目です。このほかに，選択科目として４つの科目群から幅広い分野の授業科目を選択履修し，全学 CP が定める各科目群の目標への到達を促します。

（2）生物資源科学部では，専門分野での学修に加えて，自己のもう一つの成長の可能性を発現させるため,「島根大学クロス教育」の履修を推奨します。「島根大学クロス教育」は，下に掲げるⓐ～ⓔの５つのプログラム・カテゴリーがあり，テーマや学問分野の異なる複数の教育プログラムによって構成されています。プログラムごとに修了に必要な単位数が定められています。生物資源科学部では卒業までに「島根大学クロス教育」から１プログラム以上含

んで学修することを推奨しています。
ⓐテーマ別プログラム（10 単位）
ⓑ他学部学問基礎プログラム（10 単位）
ⓒ同学部異領域専門プログラム（10 単位）
ⓓアドバンストプログラム（20 単位）
ⓔトランスボーダープログラム（30 単位）
各カテゴリの目的・目標については全学 CP を参照してください。

（3）生物資源科学部では，SDGs の目標とその達成への理解を促すため，全学基礎教育の「SDGs 入門（2 単位)」を必修科目として学修します。また，特に専門教育科目の「生物資源科学の研究と SDGs（2 単位)」での学修を通じて，「2．飢餓をゼロに」「3．すべての人に健康と福祉を」「15. 陸の豊かさも守ろう」などを含めた SDGs の 17 目標の理念を理解し，それらの達成に資する人材を育成します。さらに，全ての授業科目において，SDGs の 17 の目標との対応関係をシラバスに記載し，学生の関心に沿った授業選択を促します。

（4）１年次の「初年次教育科目」として「生命科学基礎セミナー」，「農林生産基礎セミナー」，「環境共生科学基礎セミナー」が設けられており，議論する力・批評する力・レポートを書く力・プレゼンテーションする力などの「主体的に学ぶ態度」を養います。また，グループ学習によって，他者と協調・協働して行動する力などを身につけることができます。また，１年次では，学部共通科目として開講される「基盤科目」の中から，学科・コースにおける専門教育科目を履修するための基礎となる科目を履修します。

- 生命科学科では，細胞生物学や生態学などの生物学分野，生物化学や物理化学などの化学分野の科目を選択して履修し，理学や農学に関わる基礎的な知識と総合的視点を身につけることができます。
- 農林生産学科では，必修として学科が開講する４つの概論科目を履修するとともに，学部共通科目として開講される「基盤科目」を選択して履修します。生物資源科学に関わる基礎的な知識と総合的視点を身につけ，２年次以降に農林生産学の専門教育科目を履修するための土台とします。
- 環境共生科学科では，１年次の「専攻科目」として「環境共生科学概論」を履修し，２年次以降に専攻する専門分野への意識を高めます。さらに，科学全般を理解し，理学や農学に関わる基礎的知識と総合的視点を身につけるために，学部共通科目として開講される「基盤科目」を履修します。

（5）２年次以降は，特色ある教育コースに所属し，定められたカリキュラムにそって「専攻科目」を履修します。各学科にはそれぞれ以下に示す４つの教育コースがあります。

- 生命科学科　：『細胞生物学コース』，『水圏・多様性生物学コース』
  『生命機能化学コース』，『食生命科学コース』
- 農林生産学科　：『資源作物・畜産学コース』，『園芸植物科学コース』

『農業経済学コース』,『森林学コース』

- 環境共生科学科：　『環境生物学コース』,『生態環境工学コース』
  『地域工学コース』,『環境共生科学コース』

なお, 各教育コースでの詳細な専門科目の履修に関しては「履修の手引」に記載しています。

（6）生命科学科では３年次後期から，農林生産学科と環境共生科学科では 3 年次前期から，卒業研究に取り組む研究室に所属し，専門分野の知識を深め，専門的な研究手法や技術を習得します。「専攻科目」のセミナーや演習，実習，実験で専門性の高い実践的な研究手法を習得し，４年次の卒業研究を準備します。

（7）４年次には「卒業研究」を履修し，これまでに修得した知識や能力を存分に発揮しさらに伸ばしていくために，自ら定めた研究課題に取り組みます。関係する科学論文（英語文献を含む）を収集・理解し，実験や調査を実施し，得られたデータを適切に分析・考察し，成果を取りまとめ，発表します。

２．教育課程における教育・学修方法に関する方針

（1）「専攻科目」は，各専門分野におけるより高度な知識・技能を修得するとともに，批判的思考力や問題の発見・解決能力を涵養することを目的として開講され，教育コース毎に講義，セミナー，演習，実験，実習を体系的に組み合わせて実施します。講義系の授業群では，専門分野の知識や理論を体系的に身につけ，また，その理解をレポートなどで文章化することが求められます。セミナー・演習・実験・実習系の授業群では，専門分野の理解を深めるとともに，基礎となる実験・調査・分析の手法，文献調査やデータに基づく発表，英語科学論文の内容理解，技術者としての資質・能力などを実践的に身につけます。これらを通じて，主体的な態度と批判的思考力，課題探求・解決力，判断力，表現力を向上させます。

（2）実験や実習系の授業群の中には，地域の恵まれた環境を生かして，多彩なフィールド教育が組み込まれています。島根大学松江キャンパス内の実験圃場・動物舎，附属生物資源教育研究センター（本庄総合農場，神西砂丘農場，演習林，隠岐臨海実験所），エスチュアリー研究センターなどの大学施設や，島根県内の農村などと連携した多様なフィールド教育科目があり，野外調査や分類同定，植物栽培，動物飼養，化学分析，遺伝子解析，森林調査，農家聞き取り調査などの技術を身につけます。実験系の授業群では，総合科学研究支援センター遺伝子機能解析部門と連携しながら生命科学に関わる解析技術やデータ分析を身につけます。これらの科目では，自然の摂理を創造的に解析する力，生物・生命・生産・環境に関する諸問題，農林業生産についての諸問題，自然現象を直接感受し環境調和型社会の構築に関わる諸問題を科学的・総合的に捉え，解決する力を養います。

（3）「卒業研究」とその関連科目では，担当教員の指導のもとに，自らが研究課題を定め，文献

収集，実験・調査・観測によるデータの収集と解析を行い，卒業研究を完成させます。研究活動を通じて課題探求・解決能力，思考力，判断力，表現力，コミュニケーション力をより向上させることを目指します。

3．学修成果の評価の方針

（1）授業における学修成果は，シラバスに記載した到達目標を基に「生物資源科学部における成績評価基準」に従って評価されます。

（2）4年次の「卒業研究」では，口頭発表および卒業論文の審査を含め，複数の教員による厳正な審査による評価が行われます。

【AP（アドミッション・ポリシー）】

（令和7年度，令和8年度入学生）

■生命科学科

●求める学生像

生命科学科では，生命が織りなすさまざまな現象について，分子，細胞，組織，個体，生物集団など多様な階層での理解を深め，そのメカニズムを探究し，生命解析の高度な技術を修得することにより，生命科学分野における新たな概念の創出や正確な知識の普及，あるいは生物資源の利活用の開発に意欲がある，次のような人を求めます。

1．高等学校卒業段階の基礎的な学力を十分に身につけている人

2．自ら学ぼうという学習意欲，論理的な思考とそれを表現する能力を高めていく意欲のある人

3．生命現象への探究心や科学的好奇心に富んだ人

4．修得した生物学や化学に関する知識・経験ならびに科学的な考え方を活かし，他者と協働して，将来，教育，産業，公共等の分野で活躍し，社会に貢献する意欲のある人

●入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）

【基礎的知識と思考力を重視】

大学入学共通テストと，個別学力試験（「理科」「英語」から1教科1科目）を課し，各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているか，習得した知識を活用して問題を解くための思考力を身につけているかを評価し，選抜を行います。

一般選抜（後期日程）

【基礎的知識と思考力・意欲を重視】

大学入学共通テストでは，高等学校における各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているか，習得した知識を活用して問題を解くための思考力を身につけているかを評価します。「面接」では，科学的思考力・生命科学の基礎的な知識と強い探究心について評価します。また，学習・研究に対する熱意と意欲を持つかどうか，主体性を持って学ぶ態度を備えているかどうかを評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん一般型）

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）地域志向入試

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。さらに，「地域志向レポート」に基づいて「地域志向面接」を行い，地域への興味・関心を評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）グローバル英語入試

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。なお，別に定める外部英語検定試験の一定の資格・スコアを有することを出願要件とし，「グローバル英語入試志望理由書」に基づいて「英語面接」を行い，英語の活用能力を評価します。

●各選抜方法における求める力（評価する力）

区分		選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	熱意 意欲 主体性
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		個別学力試験	◎	○	
	後期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		面接	○	○	◎

区分			選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	主体性・ 協働性	知的好奇心・ 探究心	特定型入試で 評価する力
総合型選抜Ⅰ	へるん一般型		「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
	へるん特定型	地域志向入試	「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			地域志向レポートに基づいた「地域志向面接」					地域への興味・関心 ◎
		グローバル英語入試	「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			グローバル英語入試志望理由書に基づいた「英語面接」					英語能力 ◎
			英語資格・検定試験					英語能力 ◎

■農林生産科学科

●求める学生像

農林生産学科では，自然，生物，食に興味があり，農林水産業の現状と課題・技術・研究・普及に関する知識と技能を深めようとし，農林水産業の将来像を探究し，その実践のために必要となる専門知識や技術を学ぶ意欲のある，次のような人を求めます。

１．高等学校卒業段階の基礎的な学力を十分に身につけている人
２．自ら学ぼうとする姿勢を持ち，他者と協力して学べる誠実な人
３．山陰地域の農林水産業が抱える課題とその解決に強い関心を持っている人
４．国内外の農林水産業の発展に貢献しようとする強い意欲を持っている人

●入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）

【基礎的な知識と思考力を重視】

大学入学共通テストと，個別学力試験（「数学」,「理科」,「英語」から１教科１科目）を課し，各教科の基礎的な知識を幅広く習得し，問題を解くための文章読解力・表現力を身につけているかを評価し，選抜を行います。

一般選抜（後期日程）

【基礎的知識と思考力・意欲を重視】

大学入学共通テストでは，高等学校における各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているか，習得した知識を活用して問題を解くための思考力を身につけているかを評価します。「面接」では，科学的思考力・農林生産学の基礎的な知識と強い探究心について評価します。また，学習・研究に対する熱意と意欲を持つかどうか，主体性を持って学ぶ態度を備えているかどうかを評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん一般型）

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）地域志向入試

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。さらに，「地域志向レポート」に基づいて「地域志向面接」を行い，地域への興味・関心を評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）専門高校入試

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。さらに，「専門教科の成績」や「専門学科における資格取得」等により，専門学科での実績を評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）グローバル英語入試

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。なお，別に定める外部英語検定試験の一定の資格・スコアを有することを出願要件とし，「グローバル英語入試志望理由書」に基づいて「英語面接」を行い，英語の活用能力を評価します。

●各選抜方法における求める力（評価する力）

区分		選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	熱意 意欲 主体性
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		個別学力試験	◎	○	
	後期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		面接	○	○	◎

区分			選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	主体性・ 協働性	知的好奇心・ 探究心	特定型入試で 評価する力
総合型選抜Ⅰ	へるん一般型		「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
	へるん特定型	地域志向入試	「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			地域志向レポートに基づいた「地域志向面接」					地域への 興味・関心 ◎
		専門高校入試	「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			専門教科に関する成績や資格					専門学科に 関する能力 ◎
		グローバル英語入試	「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			グローバル英語入試志望理由書に基づいた「英語面接」					英語能力 ◎
			英語資格・検定試験					英語能力 ◎

■環境共生科学科

●求める学生像

環境共生科学科では，資源と環境を適切に保全・管理しながら持続的に利用する環境調和型社会の創造に関心を持ち，その実践のために必要となる専門知識や技術を学ぶ意欲のある，次のような人を求めます。

1．高等学校卒業段階の基礎的な学力を十分に身につけている人
2．論理的に思考し，客観的な事実から未知の課題や問題に対する判断を行って，その結果を的確に表現する，一連の能力を高めようとする人
3．旺盛な学習意欲と明確な目的意識を持ち，主体性をもって多様な人々と協働して専門知識や技術を学ぶ態度を身につけている人
4．山陰地域が有する豊かな資源と環境を保全・管理するために必要な専門知識や技術を学び，将来，地域に貢献したいと考えている人

●入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）

【基礎的知識と思考力を重視】

大学入学共通テストと個別学力試験（「数学」,「理科」,「英語」から１教科１科目）を課し，各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているか，習得した知識を活用して問題を解くための思考力を身につけているかを評価し，選抜を行います。

一般選抜（後期日程）

【基礎的知識と目的意識を重視】

大学入学共通テストによって，基礎的な知識を幅広く習得しているか，習得した知識を活用して問題を解くための思考力を身につけているかを評価します。「面接」では，環境調和型社会の創造について学ぶうえで必要な基礎知識・論理的思考力・理解力について評価します。また，学習・研究に対する熱意と意欲を持つかどうか，主体性を持って学ぶ態度を備えているかどうかを評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん一般型）

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）地域志向入試

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。さらに,「地域志向レポート」に基づいて「地域志向面接」を行い，地域への興味・関心を評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）専門高校入試

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。さらに,「専門教科の成績」や「専門学科における資格取得」等により，専門学科での実績を評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）グローバル英語入試

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。なお，別に定める外部英語検定試験の一定の資格・スコアを有することを出願要件とし,「グローバル英語入試志望理由書」に基づいて「英語面接」を行い，英語の活用能力を評価します。

●各選抜方法における求める力（評価する力）

区分		選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	熱意 意欲 主体性
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		個別学力試験	◎	○	
	後期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		面接	○	○	◎

区分			選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	主体性・ 協働性	知的好奇心・ 探究心	特定型入試で 評価する力
総合型選抜Ⅰ	へるん一般型		「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
	へるん特定型	地域志向入試	「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			地域志向レポートに基づいた「地域志向面接」					地域への興味・関心 ◎
		専門高校入試	「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			専門教科に関する成績や資格					専門学科に関する能力 ◎
		グローバル英語入試	「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた面接	○	○		◎	
			グローバル英語入試志望理由書に基づいた「英語面接」					英語能力 ◎
			英語資格・検定試験					英語能力 ◎

【AP（アドミッション・ポリシー）】
（令和９年度以降入学生）

■生命科学科

●求める学生像

生命科学科では，生命が織りなすさまざまな現象について，分子，細胞，組織，個体，生物集団など多様な階層での理解を深め，そのメカニズムを探究し，生命解析の高度な技術を修得することにより，生命科学分野における新たな概念の創出や正確な知識の普及，あるいは生物資源の利活用の開発に意欲がある，次のような人を求めます。

１．高等学校卒業段階の基礎的な学力を十分に身につけている人
２．自ら学ぼうという学習意欲，論理的な思考とそれを表現する能力を高めていく意欲のある人
３．生命現象への探究心や科学的好奇心に富んだ人

４．修得した生物学や化学に関する知識・経験ならびに科学的な考え方を活かし，他者と協働して，将来，教育，産業，公共等の分野で活躍し，社会に貢献する意欲のある人

●入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）

【基礎的知識と思考力を重視】

大学入学共通テストと，教科・科目に係る個別テスト（「理科」「英語」から１教科１科目）を課し，各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているか，習得した知識を活用して問題を解くための思考力を身につけているかを評価し，選抜を行います。

一般選抜（後期日程）

【基礎的知識と思考力・意欲を重視】

大学入学共通テストでは，高等学校における各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているか，習得した知識を活用して問題を解くための思考力を身につけているかを評価します。「面接」では，科学的思考力・生命科学の基礎的な知識と強い探究心について評価します。また，学習・研究に対する熱意と意欲を持つかどうか，主体性を持って学ぶ態度を備えているかどうかを評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん一般型）

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）地域志向入試

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。さらに，「地域志向レポート」に基づいて「地域志向面接」を行い，地域への興味・関心を評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）グローバル英語入試

「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」，「読解・表現力試験」，「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。なお，別に定める外部英語検定試験の一定の資格・スコアを有することを出願要件とし，「グローバル英語入試志望理由書」に基づいて「英語面接」を行い，英語の活用能力を評価します。

●各選抜方法における求める力（評価する力）

区分		選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	熱意 意欲 主体性
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		教科・科目に係る個別テスト	◎	○	
	後期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		面接	○	○	◎

区分			選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	主体性 協働性	知的好奇心 探究心	特定型入試で評価する力
総合型選抜Ⅰ	へるん一般型		「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
	へるん特定型	地域志向入試	「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			地域志向レポートに基づいた「地域志向面接」					地域への興味・関心 ◎
		グローバル英語入試	「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			グローバル英語入試志望理由書に基づいた「英語面接」					英語能力 ◎
			英語資格・検定試験					英語能力 ◎

■農林生産科学科

●求める学生像

農林生産学科では，自然，生物，食に興味があり，農林水産業の現状と課題・技術・研究・普及に関する知識と技能を深めようとし，農林水産業の将来像を探究し，その実践のために必要となる専門知識や技術を学ぶ意欲のある，次のような人を求めます。

1．高等学校卒業段階の基礎的な学力を十分に身につけている人
2．自ら学ぼうとする姿勢を持ち，他者と協力して学べる誠実な人
3．山陰地域の農林水産業が抱える課題とその解決に強い関心を持っている人
4．国内外の農林水産業の発展に貢献しようとする強い意欲を持っている人

●入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）

【基礎的な知識と思考力を重視】

大学入学共通テストと，教科・科目に係る個別テスト（「数学」，「理科」，「英語」から１教科１科目）を課し，各教科の基礎的な知識を幅広く習得し，問題を解くための文章読解力・表現力を身につけているかを評価し，選抜を行います。

一般選抜（後期日程）

【基礎的知識と思考力・意欲を重視】

大学入学共通テストでは，高等学校における各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているか，習得した知識を活用して問題を解くための思考力を身につけているかを評価します。「面接」では，科学的思考力・農林生産学の基礎的な知識と強い探究心について評価します。また，学習・研究に対する熱意と意欲を持つかどうか，主体性を持って学ぶ態度を備えているかどうかを評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん一般型）

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）地域志向入試

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。さらに,「地域志向レポート」に基づいて「地域志向面接」を行い，地域への興味・関心を評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）専門高校入試

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。さらに,「専門教科の成績」や「専門学科における資格取得」等により，専門学科での実績を評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）グローバル英語入試

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。なお，別に定める外部英語検定試験の一定の資格・スコアを有することを出願要件とし,「グローバル英語入試志望理由書」に基づいて「英語面接」を行い，英語の活用能力を評価します。

●各選抜方法における求める力（評価する力）

区分		選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	熱意 意欲 主体性
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		教科・科目に係る個別テスト	◎	○	
	後期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		面接	○	○	◎

区分			選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	主体性 協働性	知的好奇心 探究心	特定型入試で評価する力
総合型選抜Ⅰ	へるん一般型		「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
	へるん特定型	地域志向入試	「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			地域志向レポートに基づいた「地域志向面接」					地域への興味・関心◎
		専門高校入試	「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			専門教科に関する成績や資格					専門学科に関する能力◎
		グローバル英語入試	「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			グローバル英語入試志望理由書に基づいた「英語面接」					英語能力◎
			英語資格・検定試験					英語能力◎

■環境共生科学科

●求める学生像

環境共生科学科では，資源と環境を適切に保全・管理しながら持続的に利用する環境調和型社会の創造に関心を持ち，その実践のために必要となる専門知識や技術を学ぶ意欲のある，次のような人を求めます。

1．高等学校卒業段階の基礎的な学力を十分に身につけている人
2．論理的に思考し，客観的な事実から未知の課題や問題に対する判断を行って，その結果を的確に表現する，一連の能力を高めようとする人
3．旺盛な学習意欲と明確な目的意識を持ち，主体性をもって多様な人々と協働して専門知識や技術を学ぶ態度を身につけている人
4．山陰地域が有する豊かな資源と環境を保全・管理するために必要な専門知識や技術を学び，将来，地域に貢献したいと考えている人

●入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）

【基礎的知識と思考力を重視】

大学入学共通テストと教科・科目に係る個別テスト（「数学」，「理科」，「英語」から１教科１科目）を課し，各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているか，習得した知識を活用して問題を解くための思考力を身につけているかを評価し，選抜を行います。

一般選抜（後期日程）

【基礎的知識と目的意識を重視】

大学入学共通テストによって，基礎的な知識を幅広く習得しているか，習得した知識を活用して問題を解くための思考力を身につけているかを評価します。「面接」では，環境調和型社会の創造について学ぶうえで必要な基礎知識・論理的思考力・理解力について評価します。また，学習・研究に対する熱意と意欲を持つかどうか，主体性を持って学ぶ態度を備えているかどうかを評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん一般型）

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）地域志向入試

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。さらに,「地域志向レポート」に基づいて「地域志向面接」を行い，地域への興味・関心を評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）専門高校入試

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。さらに,「専門教科の成績」や「専門学科における資格取得」等により，専門学科での実績を評価します。

総合型選抜Ⅰ（へるん特定型）グローバル英語入試

「調査書」,「活動報告書」及び「クローズアップシート」,「読解・表現力試験」,「志望理由書」を用いた「面接」により，知的好奇心・探究心を重視し，学力の３要素を総合的に評価します。なお，別に定める外部英語検定試験の一定の資格・スコアを有することを出願要件とし,「グローバル英語入試志望理由書」に基づいて「英語面接」を行い，英語の活用能力を評価します。

●各選抜方法における求める力（評価する力）

区分		選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	熱意 意欲 主体性
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		教科・科目に係る個別テスト	◎	○	
	後期日程	大学入学共通テスト	◎	○	
		面接	○	○	◎

区分			選抜方法	知識・技能	読解力 思考力 判断力 表現力	主体性 協働性	知的好奇心 探究心	特定型入試で 評価する力
総合型選抜Ⅰ	へるん一般型		「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
	へるん特定型	地域志向入試	「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			地域志向レポートに基づいた「地域志向面接」					地域への 興味・関心 ◎
		専門高校入試	「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた「面接」	○	○		◎	
			専門教科に関する成績や資格					専門学科に 関する能力 ◎
		グローバル英語入試	「調査書」，「活動報告書」及び「クローズアップシート」	◎		◎	◎	
			読解・表現力試験		◎			
			志望理由書を用いた面接	○	○		◎	
			グローバル英語入試志望理由書に基づいた「英語面接」					英語能力 ◎
			英語資格・検定試験					英語能力 ◎